

語釈：インターネット Twitter 上でみる Trump 米大統領の英語 (19) (A Basic Way of Reading Trump-Language)

後 藤 寛

2020 年となったが目下、米国による対イラン制裁(the U.S. sanctions against Iran)で中東情勢は緊迫している。また、国内的には大統領選(the U.S. Presidential Election)の年であり、すでに何かと話題が多い。昨年も来る日も来る日も部屋のテレビ、机上のパソコン(PC)、外出での移動中は手持ちのスマホ(smartphone)で文書読み(reading)・動画での online 生報道の視聴(viewing/hearing)などにより、英語・スペイン語・日本語を介し追い求めていた米国の状況と Trump 大統領に関する情報量は相当なものとなった。

Trump 大統領は自然災害(natural disaster)なども自国で起これば America First の精神を貫こうとし、迅速に対応してきた。確かに彼は公約は守ろうとすると評されもする。批判はあるが、一方で彼は歴代の米国大統領の誰より信頼されているのかもしれない。この趣旨を Basic で言えば He is a man of his word, and he does what he said he would do for 'America First', and that may be a reason why he is being more loved and respected than any other President* in the history of America. などとなる〔文中の President* は Basic での国際名称語(international name)15 語中の 1 語〕。

今回(1)では 1 年余り前のアラスカ州での震災に関するものを、(2)ではアルゼンチンのブエノスアイレスで開催された 20 カ国・地域(G20)首脳会合に関する短い tweet を扱ってみる。このとき Trump 大統領は他国の首脳との写真撮影などの場面でも 1 人だけ背広のボタンは留めず、赤ネクタイの見える例の姿で 1 列目の真ん中に立っていた。改まった格好はほとんどしなく、飾らないところが彼の政治手法にも現れるのであろう。(3)は(2)での G20 首脳会合で中国の習近平国家主席(President Xi)と会談し、Xi 主席が米国車の関税引き下げ・撤廃を同意したという翌日の tweet である。

(1) To the Great people of Alaska. You have been hit by a “big one.” Please follow the directions of the highly trained professionals who are there to help you.

Your Federal Government will spare no expense. God Bless you All !

(November 30, 2018)

▲「アラスカ州で大地震が起こったが、住民はプロの救助隊員の指示に従ってもらいたい。連邦政府は救援費を惜しみはしない、神のご加護を！」という内容であるが、あいかわらず大文字書きで語強調を好む Trump 大統領の書き方スタイルである。この地震は大きかったが結果的には被害は少なかったので、メディアは大きくは報道しなかった。

太線の州名 Alaska は音形と語形から地理的にも近いロシア連邦の語だと直感したい。インディアン語由来ではない。Alaska は歴史的にはロシア領であった。ロシア語経由で、「広大な国」の意味とされているが、Alaska は北米で最大の州である。

太線語 federal〈連邦の〉は「信頼、信用のあること」を意味する。プラス α Basic 語 *faith* と同系である。un-Basic 語では defiance {de (= no, against) + fiance (= *faith*)} (反抗・挑戦)、confidence (自信)、fiancé(e) (フィアンセ) などが同系語となる。

太線語 spare は日本人には使い方の難しい語の 1 つである。「予備の、予備品」の意味ともなるが、元々は to do without「無しで済ます→使わない→惜しむ」の意味で、否定的な「無」の意味ニュアンスがある。実は Basic 語 **space** (空) と同系である。

太線語 *expense* の同系語を Basic 語に求めれば **dependent** があるし、プラス α Basic 語に *pendulum* (振り子) もある。いずれも元の意味は「重さを計ること」で、その重さの「つり合いをとること」という語感がある。音声[pend]のもつ意味を感知したい。*dispenser* (薬剤師) など同系 [拙著(2016)「松柏社」、第二部、例(120)参照]。

なお、文中で下線をほどこした highly trained のような ly 接辞と ed 接辞の並列型 に注目し、慣れてしまいたい。大変重宝で英語に無数にあるからである。

(2) Great day at the #G20Summit in Buenos Aires, Argentina. Thank you !

(December 1, 2018)

▲南米・アルゼンチンの首都ブエノスアイレスで開催された G20 首脳会談に関してのきわめて短い tweet で、文としては何でもない。語として原義を追ってみたい。

国名・地名・人名等(toponym)の固有名詞専門研究(onomastics)も今後さらに期待されるが、太線の Buenos Aires はスペイン語であり、Buenos Aires (= good air)「良い空気」の意味である。港町で南米のパリ？とも言われる都市であるが、地球規模の異常気象でも本当に空気は良いのだろうか？ アルゼンチン人のスペイン語の響きにどこか軽妙さを感じする。スペインや北米の風土の中でのスペイン語とは空気中の物理学的音響インピーダンス(acoustic impedance)が異なり、周波数(Hz)が若干違うように感じる。

次の太線の国名 Argentina は上記 toponymic onomastics からは「銀」の意味である。argentic は「銀の」の意味。化学の元素記号で銀は Ag であるが、これも想起すればよい。では argentiferous の意味は？ {argeti (= silver) + fer (= to let ... go) + ous} と要素分解でき「銀を含有する」の意味である。ferous の[fə]の音をもつ同系 Basic 語に **offer**, **different** [dif (= away) + ferent (= to let ... go)], **fertile** があるし、un-Basic 語 conference (会議)、proliferation {proli (= off-spring : 子孫) + fer + ation} (拡散) なども同系である。the proliferation of nuclear weapons (核兵器の拡散) などとよく言う。ギリシャ系の語 metaphor {meta (= change) + phor (= to let ... go)} (隠喩・メタファー) での phor も[fə]の音をもち同系で、原義は「運び方を変えること」である。このあたりは本連載(8)の①ですで見ただけになる [同上拙著、第二部、例(66)参照]。

さらに言えば、アルゼンチンを流れるラプラタ川 [スペイン語で el Río de la Plata (銀の川)] の plata はスペイン語で「銀」の意味である。ラプラタ川で銀が産出された。英語ではラプラタ川は the River Plate という。プラス α Basic 語 *platinum* (プラチナ・白金) も「銀」の意味をもつ。Basic 語 **plate** (皿) など同系語で、語頭子音[p]が[f]([p] → [f])となった本連載(1)の①で引き合いに出した Basic 語 **plane** (平面)、**flat** (平らな) とも同系であるし、un-Basic 語 *flake* (薄片・フレーク) などとも同系。

A = B, B = C → A = C の演繹的(deductive)で、三段論法的(syllogistic)な謎掛けなら「アルゼンチンのラプラタ川と掛けて何と解く？」、「銀の平たい皿と解く」、「その心は？」→「アルゼンチン・ラプラタ川・銀・平ら・皿など、すべて root sense (原義) が同一」ということで、互いに意味が 1 つに収束する。英語には「平らであること」を意味する語は驚くほど多い。Basic 語 **plant** も同系語で「植物」も「工場」も「平らな」立地条件の所に植えたり、建てたりする [同上拙著、第二部、例(29)参照]。

さらに「銀」といえばゲルマン系では Basic 語 **silver** であり、table silver なら「ナイフ、フォーク、スプーンなどの銀食器一式」の意味となるが、silver は argentic, plate など上記語とは同系ではない。英語史でも silver は OE (Old English : 古英語) の語形 seolfor からとしか一般には説明しないが、印欧祖語の語根 PIE etymon 音素形までさかのぼれば/EL/が復元されていて、element (元素) などの英語を生んだ。人体なら、いわ

ば DNA の検出で、silver 中の音[il]に印欧祖語の原音の痕跡を垣間見る。OE の seolfor は今日の silver にかなり近くなった音形・語形を示している。

いずれせよ、英語の音(sound)を聴く hearing や、構文力の関わる listening, reading で、各語を「1 音 1 魂」「1 語 1 魂」で**音と意味の一体化**を図っていきたいものである。sound の PIE etymon は/SWEN/とされ Basic 語 **song** と同系であるが、印欧祖語の音をよく残している un-Basic 語 swan (白鳥)とも同系である。白鳥は死ぬ間際の声が特別で、最も美しい音を出して鳴くと言われている〔同上拙著、第二部、例(126)参照〕。

なお、文中の summit に関しては本連載(1)の⑧でプラス α Basic 語の **sum** (合計) と同系としてすでに扱った。

(3) China has agreed to reduce and remove tariffs on cars coming into China from the U.S. Currently the tariff is 40%. (December 2, 2018)

▲米中貿易戦争と言われているが上記、アルゼンチンでの会合で Trump 大統領と中国の習近平国家主席が首脳会談を行い、Xi 主席は米国から輸入する自動車に課している 40% の関税を削減・撤廃することに同意したという内容である。

下線の語 on の原義の把握は重要である。関税は物品にワースと掛かるもので、on には広がり・連続・展開の語感がある。「取り付けること」の意味である。取り付けが on で、取り外しが off であるが、背景に深層意味素(deep sememe) <TOUCH>がある。

太線語 currently (目下) は時事英文で頻出する。Basic 語 **current** の PIE etymon 音素形は/KERS/とされ原義は「走ること」で、同系語に/k/が[h]音となった Basic 語 **horse** がある。un-Basic 語の同系語に course, occur, currency (通貨)、excursion (旅行)、cursor (カーソル) など多くがある〔同上拙著、第二部、例(17)参照〕。

ところで雑感であるが、「言語資料からパターン(pattern)・体系(system)を発見していく能力」は人間が言語習得(language acquisition)の過程で発揮する生得的(innate)なものであり、いわゆる構造主義言語学(structural linguistics)の注目するところであるが、前回の *Newsletter* (January 2020, p.4)で「pattern practice になってしまった」「pattern practice にならないように」と書かれた他の会員の文を見た。Richards, I. A. の *The Pocket Book of Basic English* (1945) [今日の *English through Pictures*] は思想的にはアメリカ構造主義の時代に世に出てきたが、日本の GDM でいわゆる pattern practice がどのような観点から否定されるものなのか? 知りたいと思っている。